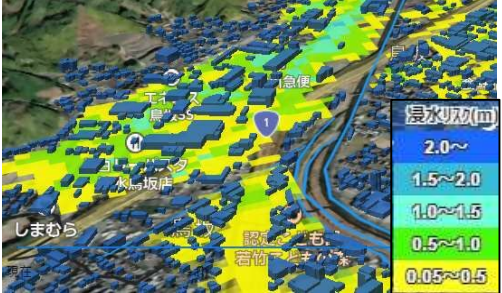


第2回 巴川流域水位・氾濫域予測システム構築に向けた研究会の開催

◆アピールポイント	<p>○システム構築に向け、昨年11月に開催した研究会につづき、有識者を交えた2回目の会合を開催します。</p> <p>○災害発生時における早期の避難行動につなげるため、気象予報、雨量、河川水位等の情報を基に、河川水位や氾濫域を予測し、その結果を提供するシステムを構築します。【本田副市長 出席有】</p>
◆日時	令和6年2月28日(水) 15時から17時
◆場所	静岡庁舎8階 市長公室
◆内容など	<p>1 研究会での主な検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測モデルの構築 第1回研究会で議論した予測モデル構築の方針をもとに、構築・検証過程、および計算処理時間の短縮策や誤差補正手法など、最適なモデルの構築について検討します。 ・実況、予測雨量の精度検証 第1回研究会での意見を踏まえ、システムに取込む実況・予測雨量において、過去の台風に加えて前線性のデータも併せて検証することで、より精度の高い最適なプロダクトを検討します。 ・住民周知の方針検討 第1回研究会での意見を踏まえ、システムにより予測した情報について、気象業務法や水防法の制約、予測精度の信頼性や社会的受容を考慮したうえで、どのように市民へ伝えるべきか検討します。 <p>2 今後の予定</p> <p>研究会の検討結果を踏まえ、6年度春にシステムの試験運用を開始し、システムの精度検証や精度向上を行ったうえで、7年度の本運用開始を目指します。</p> <p>(右図) 氾濫域予測結果を3Dで表示したイメージ</p> 
◆その他	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究会の会議録等は、後日、市公式ホームページで公開させていただきます。 ・第1回研究会の内容は市HPに掲載しています。 https://www.city.shizuoka.lg.jp/316_000095.html (3/1以降新HPへ移行予定)

別紙資料 有

【問合せ】 河川課 (静岡庁舎6階)
 担当 鈴木、石塚、八木
 電話 054-221-1087

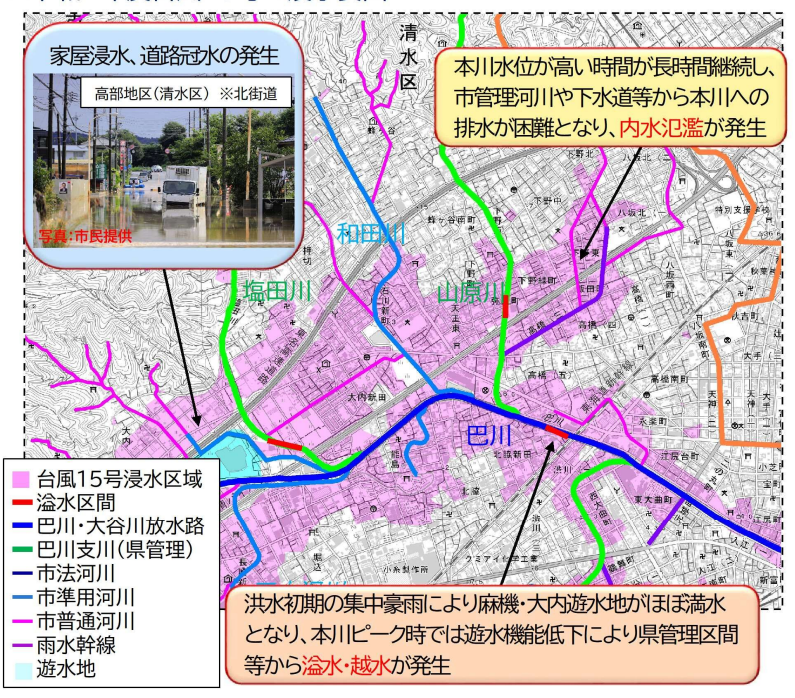
【研究会概要】 第2回（仮称）二級河川巴川流域水位・氾濫域予測システム構築研究会

1 目的

巴川流域では昭和49年の七夕豪雨以降、麻機遊水地、雨水貯留施設整備など、様々な治水対策を河川管理者である静岡県と連携して実施してきましたが、令和4年台風15号では記録的な豪雨となり、床上浸水約3,500戸、床下浸水約1,300戸と甚大な被害を受けました。被災後に実施した静岡市被災者アセスメント調査等では、「家財の2階への移動や自動車の避難をするため、事前に浸水発生や道路冠水に関する情報を得たい」との意見が多数ありました。

そこで、静岡市では数時間後の巴川の水位や溢水した時の氾濫域を予測するシステム構築を検討しております。巴川流域のような中小河川で、氾濫域を予測することは全国的にみても事例が少なく、先進的な取り組みとなります。そのため、以下のように、様々な課題があります。

■令和4年度台風15号の浸水要因



【主な課題】

- ①巴川は遊水地や放水路等があり、様々な要素で水位が変動するため、水位予測が難しい
- ②本川の水位が上がり、支川の排水ができないことを原因とする氾濫（内水氾濫）のモデル化が難しい
- ③降雨データ（実況・予測データ）は様々あるが、どの配信情報を適用すれば予測精度が確保できるか
- ④洪水予報の市民への提供は、気象業務法の制約を受けるが、どのような解決方法があるのか
- ⑤どういったユーザーインターフェースにすることがわかりやすい情報となるか

学識者、関係機関と共に研究することで、課題を解決していくことを目的としています

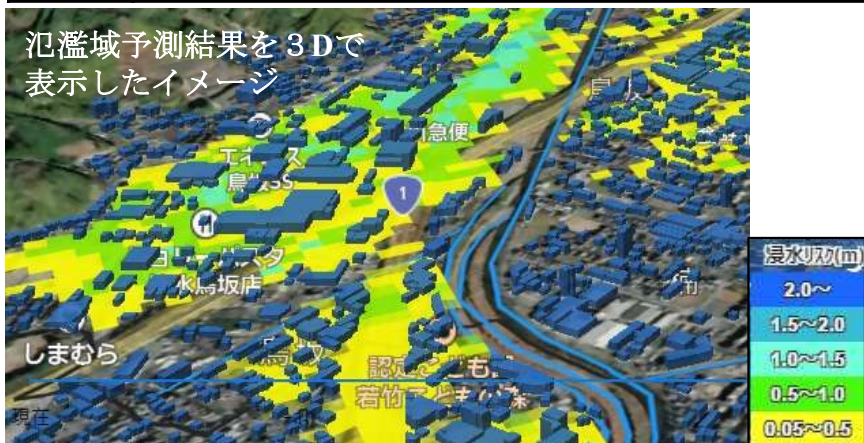
2 研究会構成員

役職	職名等
会長	静岡市 本田副市長
副会長	静岡市 建設局 次長兼土木部長
委員	京都大学 防災研究所 流域災害研究センター長・教授 川池 健司
委員	京都大学 防災研究所 社会防災研究部門・教授 佐山 敬洋
委員	京都大学 防災研究所 気象・水象災害研究部門・准教授 山口 弘誠
委員	静岡大学 防災総合センター副センター長・教授 牛山 素行
委員	国土交通省 中部地方整備局 河川部水災害予報センター長
委員	一般財団法人河川情報センター 審議役
委員	気象庁 静岡地方气象台 次長
委員	静岡県 交通基盤部 河川砂防局長
委員	静岡市 危機管理総室長
委員	静岡市 上下水道局 下水道部長

3 第2回研究会の次第

1. 開会（会長：本田副市長）
2. 議事
 - (1) 水位・氾濫域予測モデルの構築について
 - (2) 実況・予測雨量の精度検証
 - (3) 予測システムのプロトタイプ構築
 - (4) 住民周知のための対応方針
 - (5) 表示システムの検討
 - (6) 今後の課題と展開
3. 閉会

氾濫域予測結果を3Dで表示したイメージ



4 今後の予定

- ①令和6年度春
試験運用の開始
- ②令和6年度
システムの精度検証・精度向上
※必要に応じ、研究会を開催
- ③令和7年度
本運用開始